# 八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
３年生　第10号
2024年７月10日
編集・文責　吉成正士

（９号からの続き）

## 言い切った。楽しかった。

■私は初めて学年全体の前で作文を読みました。私は人前に立って自分の意見を言うことは苦手です。授業の発表は言えるのに，人権のことになると緊張して，声まで震えるほどです。でも今回は，満足のいく発表にすることができました。それは，自分が「伝えたい」という気持ちが強いからだと考えました。発表し終わった瞬間，「言い切った。楽しかった」と心から思えました。その後はもう何も怖くありませんでした。今回の人権作文には，ジェンダーばかりでなく，コンプレックス，長所と短所など，たくさん聞くことができました。安田さんの発表にもあったように，「人権学習のカタチ」を変えてくれたことで，私も周りも言いやすくなったと思います。当時の人権委員さんたちに感謝したいです。また，田中さんの発表を聞いて，自分のコンプレックスを羨ましいと思っている人，素敵だと思ってくれている人がいることに気づき，自分もコンプレックスを個性と捉えて，自信にしようと思いました。なりたい自分になるには，自分の好きじゃない部分を好きにならなければならない。私も自分を愛せるようにしていきたいです。これからの人権学習が残り少なく，一つ一つを大切にしなければならないということに気づかされました。　　5組DI

その達成感を感じることはすごく大事です。あとはそれを継続していくことです。やめれば元に戻るだけですから。でも，やり切ったという記憶は確かに残るわけですから，それを自信にして，次の峠に向けて歩いていくことです。立ち止まらないことです。「自分はできる！やればできる！」そのことを確かに胸に，歩みを止めず進めていきましょう。

「ぞうさん，ぞうさん，お鼻が長いのね。そうよ母さんも長いのよ」

童謡（どうよう）「ぞうさん」の一節です。

「そう，ぼくの長いお鼻は，物を運んだり，掴（つか）んだり，食べたりできるすごく便利な長い鼻なんだ。大好きなお母さんも同じ長い鼻なんだよ」と，自分やお母さんの長い鼻に，愛（いと）おしいくらい誇りを持っています。

ドラえもんには，こんな歌があります。

「頭テカテカ，お鼻ピカピカ，それがどうした！ぼくドラえもん」

「それがどうした！」ですよね。みんなそれぞれ違っています。短所や嫌なところもあるかもしれません。でもそれも含めてみんな，自分自身ですよね。変わりたい気持ちがあって，変わろうとすることもいいでしょう。でも，ありのまま，そのままの自分でもいいのです。もしそのことをとやかく言う人がいたら，「それがどうした」と歌ってあげてはどうでしょう。

## コンプレックスは，見方を変えれば「魅力」

■いろんなクラスの子の発表を聞いて，田中さんの意見が今の自分と一緒だなと思いました。コンプレックスは，人それぞれ違っています。私にもコンプレックスはあります。私のコンプレックスは，体型と，話すときの滑舌（かつぜつ）が悪いことです。そして，比べてはいけないことだけど，どうしてあの子は可愛くて，自分はこんなんだろうとよく思ってしまいます。前に，音楽の歌のテストがあったとき，自分以外のみんなが上手くて，自分だけ音痴（おんち）だったらどうしようという不安が出てきて眠れなかったり，寝れても深夜2時間ごとに何回も起きてしまいました。自分は昔，小学生のころに，友達がコンプレックスと思ってそうなことを言ってしまいました。小学生の頃の自分は，そんなことで相手が傷つくとは思っていませんでした。その子も心のなかではつらいと思っていたのかなと思いました。人のコンプレックスは，笑ってはいけない，その人だけの魅力でいいことだと思いました。田中さん以外の意見でも，みんなの意見に共感しました。人権作文発表会は今年で最後だけど，自分と同じ意見，違う意見を聞くことができて良かったです。　　6組OM

この学習をしていると，昔のことをよく思い出します。それも，自分のしてしまった失敗談です。そして，深く反省をするのです。不思議ですが，同じ話は何人もから聞いたことがあります。つまり人権学習をしていると，「ふりかえる」のだと思います。ある人はこう言いました。「自分をふりかえることができることを，知性というんですよ」と。人権学習は，私たちを素直にしてくれ，望ましい成長に導いてくれるものなのかもしれません。ありがたいことです。

ドラえもんつながりのお話をもう一つ。ジャイアンて，すごいですよね。音痴（おんち）であっても，いつも堂々（どうどう）としている。けどもっとすごいのは，それでも仲間で居続（いつづ）けるのび太やスネ夫，周りの仲間たちです。決してのけ者に（排除）しようとはしません。みんなそれぞれにいいところもあれば，短所のように思えるところもあります。それでもそれをお互い分かったうえで，友達関係が続いていく。マンガの世界ではあるけれど，私たちもそんな関係でい

られたらと思います。

人間は間違ったことをしてしまう生き物です。どんな人でも間違えないことなんてあり得ません。だから，友達に間違ったことを言ったり，してしまったりもします。傷つけられることも，傷つけてしまうこともあるでしょう。それが人間です。仲たがいになり，今も関係がギクシャクしている人もいるかもしれません。それでも関係性をつくりなおし，新たな関係をつくっていける人間的度量の深さを持つことができれば，私たちは本当に安心して，楽に生きられるのではないでしょうか。

## 話してくれてありがとう

■人権作文を学年全体で読んで，とても緊張しました。最初読んでいるときは，私の言ったこと合ってるかな？とか，後ろまで私の書いた意見が届いているかな？と，とても不安でした。でもどんどん思いを伝えていると，なんだか約200人の視線にも慣れました。人権作文を読んだ最初の3人は，みんなが班で話しているとき，あとで読む3人に，「イスに座っただけで汗が噴き出る」「みんなからの視線やばい」などと伝えていました。私も「頑張るわ!!」と言って，結果，私の前の2人も，後の3人も，とても良い発表になりました。私が読んでいるときは気づかなかったけれど，他の人の発表を聞いているときに，結構クラスの顔一人一人を見ることができて，なぜか心が強くなりました。みんなが集中して6人の発表を聞いてくれて，私たち6人は「本当に言えてよかった」「聞いてくれてよかった」など，私もみんなも嬉しいと思える聴き方，態度でした。私が一番心に残ったシーンは，班のみんなで話しているときに，「私が経験してないことを話してくれてありがとう」と言われたことです。心が少し浮くような気持ちになりました。全体でも，一人の子が私の発表を聞いての感想を言ってくれて，これまでは「感想ばかりいいや」と思っていたけれど，その子の感想を聞いたとき，「こんなに感想を言ってくれるのって嬉しいことなんだな」と改めて思える発表会でした。　　2組OK

「打てば響く」

そんな関係って，すごくいいなぁと思います。もちろん良いことについてですが，場面によっては，何の反応もないことだってあります。でもそれって言う側からすると，「みんなちゃんと聞いてくれたのかな？」とか，「みんなはどう聞いたんだろう？」「変に思われてないかな？」と，不安な気持ちになるように思うのです。でも，こうやって反応が返ってくると，胸に広がっていた霧が晴れて，不安も吹き飛ぶのだと思います。「もしその人の立場になれば…」その人の立場に実際に立ってみないと分からないこともありますが，想像力を働かせて，それに応えられる，打てば響く感性を，しっかりと育んでほしいなと思います。

## あのときの言葉が今も心の支えに

■私は今日の人権作文意見発表会で，学び続けることの大切さを学びました。私が一番心に残った作品は，田中さんの「個性とコンプレックス」です。私も身長がみんなよりも高いというコンプレックスがあります。私はずっと前から，今でもずっとこのコンプレックスを抱えています。ですが，今日の田中さんの書いた人権作文を聞いて，私以外にも人それぞれ違ったコンプレックスを持って悩んでいるんだと気づきました。そして私は，すごく安心しました。私もお母さんに身長について相談したことが何度かあります。いつもお母さんは，身長が高い方がスタイルがいいし，いろんな服が着れるけんいいやんと言ってくれます。本当に心強かったです。あのときの言葉が今でも心の支えになっています。ポジティブに生きるっていう言葉が大事な理由が，少し分かったような気がします。私のように，コンプレックスに悩んでいる子は他にもたくさんいると思います。そんな子たちにも，ポジティブな考え方になっていってもらうために，私はその子たちの長所をたくさん言ってあげられるようにしようと思いました。それで必ずその子たちがポジティブに変わることができるかどうか確信はありません。ですが少しでも効果があるのなら，これから実践していこうと思います。4組TA

私は「あまのじゃく」な人間です。「あまのじゃく」って分かりますか？「天邪鬼」と書きます。妖怪の一種で，「ひねくれ者」とか，「へそ曲がり」を指すそうですが，「逆さまなことばかり言う人」という解釈が，私的にはしっくりきます。今風の言い方をすれば，リフレーミングとでも言えばいいでしょうか。つまり，「見方を変えて再評価してみる」ということです。これが得意な人がたまにいたりします。話していると，「どうすればそういう発想になるの？」と思えるくらいに，思考がユニークで面白いのです。「あまのじゃく」はきっと，リフレーミングの神様です。私もそんな「あまのじゃく」でありたいなと思い，頑張っていこうと思います。

（11号につづく）